

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2590100059
法人名	ウェルフェアー株式会社
事業所名	グループホーム みちくさ
訪問調査日	平成22年 3月19日
評価確定日	平成22年 3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2590100059
法人名	ウェルフェアー株式会社
事業所名	グループホーム みちくさ
所在地	滋賀県大津市稻津1丁目3-9 (電話) 077-579-5339

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】(21年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人、非常勤 1人、常勤換算15.5人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階～	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000円)・無	有りの場合 償却の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
食材料費	朝食 300 円	昼食 450 円	
	夕食 450 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢 平均	84.2 歳	最低 72 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	くろづ外科医院、 大津市民病院		
---------	-----------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

男性利用者が約半数を占めるという特徴があり、男性職員も5名いる状況である。常に笑顔のある和やかな家庭的なホームになっており、施設理念「私らしく暮らす」が実現しつつあるといえよう。毎月の行事のほかに、利用者の要望に即した少人数のドライブ・買い物・外食・花見・公園などの外出イベントがこまめに行われている。ホームの庭にも園芸や野菜の育成など、利用者の自由な活動が進められている。また、地域に対しても「よくする会」などによる話し合いで連携が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重 点 項 目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 課題であった地域との交流は、自治会との行事の交流が進められ、次第に地域に根付きつつある。また、職員の育成は、外部研修に参加しているが、内部研修はあまり進められていない。利用者の虐待防止や感染症予防の制度の理解については、職員に伝達されているが、共通認識が十分でないとの認識がある。今年度の感染症(インフルエンザ)への対応が伝達され、実施された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) はじめに全職員それぞれに自己評価を行い、それを持ち寄ってユニットごとに会合を開き、意見交換を行ってユニットの評価にまとめた。2ユニットのものを施設全体として総合的自己評価とした。この結果は会議や回覧で共有するようにしている。
重 点 項 目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 今年度大きな問題となった、新型インフルエンザ対策が議題となった。状況なども市からの連絡を受けた。そのほか、地域関連でいたずら電話や他の地域の「ふれあいサロン」の情報が得られた。ホームからの状況報告や行事・食事なども伝え、アドバイスも受けている。やや開催の頻度が少ないようである。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 外部評価時のアンケート結果により、利用者家族からの意見や希望を把握している。その内容を検討し、日常のケアやアクティビティにつなげている。また、日常の会話や様子から読み取った利用者の意向は、職員から企画提案として、数十件の提案が出され、アクティビティの活動に結びついている。家族に向けてはホームの月報と毎月の利用者の状況報告・会計報告が郵送により行われている。
重 点 項 目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者は、可能な限り外出をしており、散歩のときに近隣の住民との声掛けがなされて、地域に結びつきつつある。買い物、外食、花見などの外出や月ごとの行事などによつても地域の人との交流が進みつつある。

2. 評価結果(詳細)

(■ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームとしての理念は玄関にコンパクトな形で額に入れ掲示されている。パンフレットや事業計画には、「自分らしく、いきいきと、健康で、笑いながら楽しく過ごしたい」を明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、管理者との対話や会議などで理念の目指すことを理解し、ケアプランなどにも反映するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、敬老会や清掃活動に参加している。また大きな行事には、相互に参加がなされている。また、日常の散歩のときに近隣の人との挨拶や会話が行われ、地域に根付きつつある様子がわかる。	○	地域の高齢者関連の活動の中心的な活動に期待したい。自治会員向けの掲示を含め、介護相談やアドバイス、あるいは緊急介護の場所としてのグループホームの姿を望むものである。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が個人個人が行っている。その後、各ユニットごとに会合を行って意見を検討、集約している。ホーム全体に結果を集約してまとめている。文書回覧と会合によって共有している		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は、年間2回行われた。そのほか地域の人たちとの「よくする会」も行われている。運営推進会議では市からの情報や地域の情報やアドバイスも受けている。	○	2ヶ月に一回の開催が望まれているため、年間の日程を固定し、委員に予定してもらうことが必要であろう。自治会や民生委員などのできるだけの参加が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との連携は市役所に訪問して、各種の打ち合わせを行っている。電話による制度関連の情報なども入手している。また、市の社会福祉協議会とも情報交換がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回、利用者の健康状態や暮らしぶりを知らせる「状態報告書」と金銭管理表を郵送している。ホーム内の生活写真なども同封することもある。また、2ヶ月に一回のみちくさ通信も発行し郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が2名出席しており、意見が出されている。また、事業所として外部評価時のアンケート結果を分析検討を行い、サービスの改善に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の変動はそれほど多くなく、ホーム内の階の間の職員異動もできるだけ少ないようになっている。日常の行事やアクティビティーでは二つの階が一緒に活動することも多く、他の階の職員も利用者に違和感はないようである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社会福祉協議会などの主催の研修会(新人研修・認知症・感染症・応急手当講習会など)に職員が参加している。報告は職員に共有されるように報告している。	○	外部研修だけでなく、内部の職員間の勉強会なども育成の一部である。アクシデントやインシデントの内容を検討したり、改善に結びつけることも重要である。また、他のGHとの職員交換の実務研修も効果が大きいと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会に加入している。会員ホームの職員研修や、相互の情報交換が行われている。近隣のグループホームと行事の交流を行っている。また、同法人のデイサービス事業所との交流も始めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するするために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に管理者とリーダーが本人と家族に面接を行い、不安や思いを聞き取るようにしている。また、それに対応した支援について、職員間で共有している。入所してから数週間は詳細なケース記録を行い、細かい対応につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理・買い物・洗濯・手伝いなど利用者が自分のやりたいことや得意なことを自由にできる場を作り、活用している。職員にとっても家事の先輩として教えられることが多い。屋内だけでなく、庭での園芸や畑作業も、自由に選択できるようにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際に家族から入手した情報を直接記録やセンター方式(私の姿と気持ちシート)などに詳細に記載するとともに、日々の会話や声掛け、利用者の表情、行動などで様子の確認、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月1回開催している職員会議の中で、毎回数名づつのケース検討を行っており、職員間で利用者の情報を共有している。また、計画策定の際には、必要に応じてかかりつけ医にも声掛けがなされ、それぞれの意見を基に計画策定に取り組んでいる。	○	計画策定に際し、利用者本人からの意見を聞き取ったり、日々の係わりの中から読み取るなど、意向の把握に努めているが、担当者会議に家族の参加や意見の聴取は行われていない。今後は、出来る限り家族の参加を要請し、意向の集約に努められたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにケアプランシートによりケアの方針の見直しを図り、より良く暮らすための課題や到達目標、スタッフへの具体的な要望などを確認している。急な変化が生じた際には、随時状況に即した計画変更を行い、家族にも後日確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望や相談には、可能な限り応えている。また、利用者の健康管理は医療機関との連携により、安心につながる支援をしている。さらに、看取りに對しての取り組みも着実に進んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認をしており、利用者の要望に即した対応がなされている。協力医療機関からの往診もあることから、主治医の変更もあった。受診に際しては、基本的に職員が同行している。家族の希望で家族の付き添いだけの場合もあるが、その場合の情報は入手するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の際に「重度化の対応指針」を家族に説明し意向の確認を行っている。看取りに對しての書類も整備され、状態変化に際してはケース会議で検討し、看取りケアプランなどを作成している。また、段階的に家族への確認、同意がなされ、医療機関との連携もある。今までに数件の看取りが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや羞恥心に配慮し、さりげない言葉掛けや支援を心がけている。また、契約書内には秘密保持を明記し、個人情報の漏洩防止に努めている。入職時にはマナーに對しての研修を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	利用者の思いや要望を尊重しており、その日の過ごし方はその人の生活に即したものになっている。利用者の状況を会話やコミュニケーションなどにより把握した上で、買い物への要望や飲酒に對しても応えるなど、希望に沿った支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共にチラシや雑誌を見て献立を決めている。買い物には職員と一緒に出かけ、食事の盛り付けや配膳、後片付けに参加している。庭の畑から野菜を収穫し、食材に使用するなど、楽しみにも繋がっている。また、気分転換に外食に出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は各フロアにあり、毎日入浴を実施している。入浴時間も就寝前の要望にも応えている。菖蒲湯や柚子湯、入浴剤で温泉気分を味わう工夫をしている。湯は利用者ごとに入れ替え清潔保持に努める他、近隣の天然温泉に出かけ楽しめるよう取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの生活歴を参考に、日々の暮らしの中に役割や気晴らしを取り入れている。生け花や書道、掃除や漬物作りのほか、敷地内の畠づくりや花の世話などその人の役割や趣味、習慣に即した支援を行っている。	○	利用者の高齢化や虚弱化に対して、それまでの生活の中で出来ていた事や、習慣にしていた事が出来なくなることが近づくと思われる。今後、利用者の喜びや楽しみをいかにして引き出し、活気ある毎日を提供するかを、日々の支援の中から導き出す取り組みが求められる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事に外出を多く取り入れ、イチゴ狩やボタン・あじさいなどの草花を見物、演芸にも出かけている。さらに、職員から出される、花見や陶芸観賞、マラソン見物などの行事企画書により、日々様々な外出が実施されている。また、散歩や喫茶店、美容院などにも出かけており、外出の機会は多い。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常口のみ施錠しており、玄関も遅番の職員が帰宅する際のみ施錠している。また、居室では要望により、2名の利用者が就寝時に内側から鍵を掛けているが、状況によりスペアキーによる開錠の了解を得ている。事業所として施錠のリスクを認識しており、鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回火災訓練を実施する他、「みちくさ防災マニュアル」を玄関に設置して周知している。訓練の際には避難経路を歩いて確認している。駐車場には備蓄品を保管し、災害に備えている。	○	「みちくさ防災マニュアル」には火災に対しての指針が出来ているが、防災全般には至っていない。また、居室のベッド上には棚が設置しており、地震の際には物品の落下などの危険が伴う。今後、様々な災害を想定した防災訓練の実施や、危機意識を持った安全対策が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれにケース記録や健康に関するバイタルチェックを毎日記載している。の中には食事や水分摂取量の記入欄もあり、状況把握に役立てようとしているが、記入状況には不明や解り難い所がある。	○	日々の献立表は簡単な記入はあるが、内容の詳細な把握は難しい。献立の偏りや栄養バランスに対しての確認を進められたい。また、一人ひとりの水分補給量や栄養摂取状況にも確認、把握の必要性を感じられる。今後、食事や水分摂取に対しての検討や取り組みが求められる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2フロア共に同じ造りになっており、居室を両側に挟んで、真ん中に細長くデイルームがある。出来るだけ家庭的な雰囲気を出すために無用な飾り付けや、部屋の名札を減らしている。また、台所前の憩いのスペースにはソファーやテレビを配し風通しも良く明るいが、手狭なため多くの利用者が集う事が難しい状況である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、生活習慣やそれまでに使用していた家具や馴染みの物を持って来て、生活に馴染めるよう支援している。また、ご飯茶碗や箸、湯のみは個人の物を持ってきている。居室は東西に向いており、西向きの部屋には夏場、簾を用いて日差し対策をしている。		

認知症高齢者グループホーム評価表
(自己評価)

法人名 : ウエルフェアーブル株式会社

グループホーム名 : グループホーム みちくさ

ユニット数 : 2 ユニット

総定員 : 18 人

総実員 : 18 人

グループホーム所在地 : 大津市稻津1丁目3-9

サービス向上委員会名 :

評価の責任者 職・氏名 : 管理者 中原一隆

評価年月日 : 2010年1月31日

前回評価年月日 : 2008年12月9日

自己評価票

【事業者名称】グループホームみちくさ

(個別表)

平成22年1月31日評価実施

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I - 1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしい」暮らしを支援することを理念に掲げ、入所以前の暮らしや希望を尊重し、入所者と地域との結びつきを大事にしている。		
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示し常に職員が意識できるようにしている。またケアプランの作成において「私らしく暮らす」を頭に置いて作成している。	○	定期的に管理者、職員がどのような介護感を持っているかを知る場を設け、更なる意識向上に努めたい。
3		<input checked="" type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期開催している地域住民の会「よくする会」との交流会や運営推進会議、「通信」等で説明している。		
理念と共有 3項目中 3項目					
I - 2. 地域との支え合い					
4		<input checked="" type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	門扉に掲示板を設けイベントのお知らせなどを張ったりして。散歩時などの日常の挨拶や会話は自然に行われている。	○	地域行事への積極的な参加と地域の人が立ち寄れる機会を増やしたい。
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会や地域の清掃活動などの参加をしている。又、近所で単身介護のため急な人手を必要とする家があり、いつでも手伝いに行ける様にしている。	○	地域の高齢者世帯を把握し、施設のイベントなどにお誘いしたり遊びに来てもらえる取組みをしたい。
6		<input type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生の職場体験学習の受入や、「よくする会」の会合で地域貢献について話し合っている。	○	地域で支え合う取組みを理解してもらう為、地域で認知症の勉強会を企画したい
地域とのつきあい 3項目中 2項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が実施し、意見をまとめている。評価結果を会議・回覧で共有し改善点を話し合い取り組んでいる。	○	前年度の評価と比較し、改善された点、変化のない点を把握できるようにする。
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で委員から出た意見を基に職員と話し合い、改善に取り組んでいる。		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市社協からボランティアさんやサークル活動の情報を聞き活用したり、市担当者と情報交換に努めている		
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じ入居者や家族に説明し制度の活用を支援している。職員に対して社内勉強会を開催し理解を深めるようしているが十分ではない。	○	年1回以上は社内勉強会を開き、制度の理解を深める。
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議等で話し合いの場を設け、身体拘束や虐待を行わないよう職員一人一人意識を持って勤務しているが、共通認識が十分でない。	○	年1回以上は社内勉強会を開き、法の理解を深める。
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目					
		I-4. 理念を実践するための体制			
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	自立支援など理念を入居前の相談時から丁寧に説明している。また医療連携(ターミナルケア)体制についてはその都度説明している。		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回、入居者と職員の話し合いの場(寄り合い)がある。要望や想いを聞き改善すべき点はその都度見直している。	○	以前は市の介護相談員の訪問があったが、今年度は実施されていない。独自に外部相談員の設置を検討したい
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、書面「状態報告書」にて暮らしぶりや健康状態等を報告し、金銭管理表も送付している。面会時に都度報告している。二月に1度「通信」を発行している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族に意見をお聞きしている。外部評価の家族アンケート結果を把握し改善に努めている		
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の管理者会議、リーダー会議及び、職員会議を通じて現状を把握し、意見交換している。		
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入所者の外出や病院受診の付添い、行事イベントの時など、職員の増員の確保に努めている。		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り職員の移動は行わず、代わる場合は影響を考慮し、十分に検討を重ね実施する。		
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場リーダー、中堅、新人各々の職員の段階に合わせて外部研修に参加してもらっているが十分でない。	<input type="radio"/>	職員一人一人の要望を聞き、研修計画を立てて実施したい。
20	11	<input checked="" type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会の会員になっている。職員研修や、事業所相互の情報交換に努めている。また、近隣GHと行事の交流をしている。		
21		<input type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	有給休暇の取得を促したり懇親会等を開催しているが、十分とはいえない。	<input type="radio"/>	職員相互の親睦や他施設との交流も積極的に行いたい。
22		<input type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	資格(ケアマネージャー等)試験合格時にお祝い金を贈っている。昇給や賞与が出せるように努力している。外部研修への参加も促がしている。	<input type="radio"/>	キャリアパスの導入を進めたい。
人材の育成と支援 4項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に管理者とリーダーで面接を行い、ご本人の思いをお聞きしている。持ち帰った情報を書面にし、職員間で共有している。		
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者とリーダーが面談時に家族の不安や思いを十分に聞くよう努めている。持ち帰った情報は書面にし職員間で共有している。		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズに合った支援は何か見極め、それに沿った在宅や医療施設等の選択肢もあることを説明している。		
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来るだけ利用頂く前に見学に来て頂いている。入居してしばらくは様子を詳細に記録し細かな支援が出来るよう努めている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や買い物、洗濯、烟など入居者一人一人が得意とすることで活躍する場を設け、職員が一緒に行い教えてもらう等している。		
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時は職員が積極的にご本人の様子を伝えている。法事や墓参りなどご家族と一緒にを行うことに意味があるイベントは家族に積極的に関わってもらっている。		
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていくように支援している	家族と一緒に外出したり、会いに行ったりする機会を作り実施している。行事の開催、衣替えや必要なものを届けてもらうなど面会の機会を設けている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族等からの情報を集め、美容室や知人会いに出掛けたり、手紙を出す機会を作り実施している。		
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方同士での外出を企画・実施している。又、調理などお手伝いを通して関係を持って頂けるよう働きかけている。		
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な方には関係が断ち切ることがないよう支援している。	○	暑中見舞いや年賀状、イベントの案内を出すことでお付き合いを続けたい。
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
		III-1. 一人ひとりの把握			
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情、行動、会話などから、本人の意向に沿うケアプランの作成(センター方式使用)に努めている。		
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所された以後もセンター方式を用いて本人や家族等から聞き取り、アセスメントを行っている。		
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務の中でスタッフ間で話す機会が自然に作られている。日々のケース記録やケース会議で現状の把握に努めている。		
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
		III-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や楽しみ、趣味を反映した介護計画を心掛けている。又、ケース会議において職員で意見交換をしている。	○	本人だけでなく、家族や関係者からの意見を取り入れるため話合いの場を増やしたい。
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月ごとに見直しを行なっている。状態に変化があった場合は都度、新たなプランを作成している。		
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケアプラン実施表」でプランの実践状況を把握し、ケース記録にも個々の気づきを記入している。		
介護計画の作成と見直し 3項目中 3項目					
		III-3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、日々の健康管理と要望に応じターミナルケアまで取り組んでいる。可能な限り要望に応えている。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		III-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民謡のボランティアの来訪がある。地域住民の会「よくする会」や社協、行政等に必要に応じ相談をしている。		
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャー やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協働して在宅復帰の可能性の検討を行なったりしている。		
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業の活用や、在宅復帰の可能性の検討を協働して行なったりしている。		
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と24時間医療連携をとっている。また本人や家族が希望される医療機関に受診いただいている。		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	以前より受診されている方は継続し受診している。その際、職員も添付し、医師と連携している。必要に応じて専門医に受診し、指示・助言を受けている。		
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師が週1回訪問し、健康管理を行ってもらっている。		
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時のほか、病状の経過や退院時期について医師・看護師、家族と情報交換を行い、カンファレンスに参加している。		
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「重度化の対応指針」を家族等に説明し、終末期のご意向を定期的に確認している。かかりつけ医との話し合い、社内会議を行っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<p><input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	「重度化の対応指針」を作成し、医師・看護師、職員、家族それぞれの役割と進め方を確認し合い、必要な知識の勉強会を行っている。今年度も2名の看取りを実施した。		
49		<p><input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	転居される介護施設等への情報交換を行い、本人・家族等に対しても丁寧な情報提供を心掛けている。		
地域資源との協働 10項目中 10項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
		IV-1. その人らしい暮らしの支援			
		IV-1. (1) 一人ひとりの尊重			
50	20	<p><input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている</p>	排泄や介助が必要な場面で、さりげない支援を心掛けているが時折、配慮が足りないことがある。記録はイニシャルで記載している。	○	全職員が相手の立場に立った言葉掛けが徹底出来るよう、職員同士で注意し合える職場環境を目指す。
51		<p><input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	選択式など一人一人に合わせた話し方や説明の仕方をし、出来るだけ自分で決定して頂いている。		
52	21	<p><input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	起床・消灯、入浴時間等の決まった時間は無い。“買い物に行きたい”など希望に沿って1日を過ごしてもらっている。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					
		IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53		<p><input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	服選びやお化粧など個々に応じたおしゃれを支援している。理美容は本人の希望するお店に出掛けている。		
54	22	<p><input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	一緒に献立を決めたり買い物に行っている。一緒に作ったり、後片付けもしている。食べられない物には別メニューで対応。摂取カロリー量に注意している。		
55		<p><input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	お酒、たばこ等、嗜好品を本人の状況(体調管理が必要な方は医師に相談の上)に合わせ提供している。		
56		<p><input checked="" type="checkbox"/> ④気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	夜間は睡眠を優先しているが、個々に応じた定期的なトイレ誘導を行っている。		
57	23	<p><input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	毎日入浴される方もおられる。出来るだけ希望に添えるように対応している。寝る前を希望される方にも入浴して頂いた。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠できるように日中の活動を促しているが、就寝・起床時間に決まりはなく、自分のペースで休息が取れる。居室のベットか畳の希望も聞いている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6項目					
		IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔されていた漬物づくりや生け花、書道、畑作業など本人に合った役割を持った生活を支援している。		
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は買い物時にご自分で支払いをしてもらっている。その他の方も自由に買い物ができる。		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、毎日の食事の買い物、喫茶店などご希望に合わせて行っている。	○	希望者だけに偏らず、遠慮されている方にも積極的にお誘いする。
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉や墓参りなど、普段から希望を聞いて、本人と計画し実施している。	○	ご希望を聞いて、県外への外出や宿泊旅行も企画したい。
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援をしている	希望される時は友人や家族に自由に電話をしてもらっている。年賀状を出すことを積極的に勧めている。	○	年賀状だけに限らず、文通など手紙を送る機会を増やせればよいと思う。
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご希望を聞いて本人の居室やリビングでゆっくり過ごして頂いている。	○	こちらから友人や家族に会いに行く機会も増やしていきたい。
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6項目					
		IV-1. (4) 安心と安全を支える支援			
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを、会議などで職員全体で確認し、実施出来ている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上以外の全ての場所に鍵を掛けない徹底をしている。		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間でアイコンタクトや声を掛け合い、所在の把握に努めている。		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に合わせて注意が必要な物品を把握し管理している。包丁がある場合はドアストッパーを付けている。		
69		<input type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデント・アクシデントレポートの提出は積極的に出せるようになったが、必ずしも予防、再発防止につながっていない。	○	提出されたレポートを職員間で見直す機会を設け再発防止につなげたい。
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応マニュアルがある。救命救急の訓練の講習を全職員受けている。		
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を実施し避難経路を歩いて確認している。屋外に災害用備蓄品(食料・水など)を設置している。		
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒の危険性や病状等の変化についてその都度説明している。状態に応じて対応策について話し合っている。主治医から説明していただくこともある。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化などの特記事項は申送りやケース記録を活用し、医師に相談するなど速やかな対応を行っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方の都度、薬剤師から薬の用法等の説明を受けている。ケース記録に薬の資料を添付しているが、個々の薬の効果等は把握しきれていない。	○	全員の服薬内容がひと目で見て分かるような1冊のファイルにまとめ、職員が閲覧できるようにしたい。
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、便秘時には食物繊維の多い食品や水分摂取、散歩などを心掛けている。		
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを支援している。希望者には訪問歯科を実施している。必要に応じ歯科受診を支援している。		
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに考慮した献立を心掛けている。パン、御飯、飲み物の好みに応じた提供をしている。	○	栄養のバランスノ損れた食事メニューや作り方などの勉強会を開きたい。
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、予防・対策に努めている。職員の代表が外部研修に参加し、資料を配布し対応方法について学んだ。	○	年に1回以上は勉強会を開催する。
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日使う分だけ購入して。調理器具、台所の清潔保持を職員で決めて実行している。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
		IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
		IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり			
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	掲示板を設置しイベント案内などを張り出している。木や花を植えて、門扉や玄関は普通の家の雰囲気にしていて。		
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入居者が活けてくれる季節の花を飾っている。音楽好きの方が多いので、昼間は音楽が流れることが多い。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思に過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間ながらもテレビを共有するスペースを2ヶ所設け、ゆっくり過ごしていただける空間作りに配慮している。		
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から入居者・家族と相談し、好みのカレンダーや写真を飾り、出来るだけ慣れ親しんだ物に囲まれた環境にしている。		
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員が小まめに換気・温度調節を行っている。ご自分で管理されている方にも入室時に声かけを行っている。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やソファーの位置等も配慮している。安全に入浴頂く為に、必要に応じてバスリフトを使用している。		
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前やトイレに表札をついている。トイレ内には手順を記した張り紙をしている。		
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑と花壇があり、野菜や花を育て収穫を楽しんでいる。ベランダや踊り場は毎日景色を楽しめている。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
↓○印欄		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者が「私らしく暮らす」ことを追及するため、日々、一人一人にとって何が大切なのか、何が「私らしい」かを常に考えながら支援にあたっています。その考えをケアプランに反映させて、一人一人に寄り添ったプラン作りを実現させています。
良い意味で「職員が入居者に振り回され、入居者中心の暮らし」が出来ています。

個別ケアを積極的に行い、個人、仲良しの入居者同士での外出支援に力を入れています。21年度は職員から48枚の「行事企画書」が提出され、実施されました。合わせて「行事報告書」にて成果・課題点を掘り出し、次回の企画に役立てています。

評価結果整理表

個別表

	□のチェック項目数
I 理念に基づく運営	
-1. <input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	3 項目/3項目
-2. <input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	2 項目/3項目
-3. <input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
-4. <input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
-5. <input type="checkbox"/> 人材の育成と支援	1 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	
-1. <input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
-2. <input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	
-1. <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
-2. <input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
-3. <input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
-4. <input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	
IV-1. その人らしい暮らしの支援	
-1. (1) <input checked="" type="checkbox"/> 一へひとりの尊重	3 項目/3項目
-1. (2) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
-1. (3) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
-1. (4) <input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	7 項目/8項目
-1. (5) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	
-2. (1) <input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
-2. (2) <input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

- I 理念に基づく運営（ 4項目／5項目）について
「自分らしい」暮らしを支援することを運営理念とし、入居者一人一人の「自分らしさ」の追及に力を入れています。最近は家族や地域の方が当ホームの理念をご理解頂き、応援団として協力していただけるようになりました。一方、入居者の外出支援は積極的に実行しているものの、入居者と地域を結ぶ取組みは弱く、今後は相互が行き来できる関係作りを模索していきたい。
又、人材育成はしっかりとした研修計画を立て、職員のやる気を上げるキャリアパスの導入が不可欠と考え、法人全体として早急に取りまとめたい。
- II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援（ 2項目／2項目）について
入所前から、本人と家族の思いをお聞きし、その方に合った支援の方法をご説明しています。ご本人が家族、友人ととの関係が断ち切れないように、時にはこちらから出向くこともを行い、相互交流を支援をしています。
気の合う方同士での外出を企画し新たな関係づくりを支援しています。
- III その人らしい暮らしを続けるためのアマネジメント（ 4項目／4項目）について
センター方式を用いてアセスメントを実施し、3ヶ月毎(必要に応じて1ヶ月で見直しもある)に介護計画を立案し、実施⇒見直し⇒再計画の流れで支援を行っています。
入居者の状態に合わせ、ターミナルケア体制も整え、医師、看護師、家族などと連携を図りながら今年度も2名の方の看取りを経験させいたいことは、職員の自信にも繋がったようである。
- IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援（ 7項目／7項目）について
その人らしい暮らしを支援していくために、まず「その人」のことを十分に知り、理解する取り組みを全職員で行っています。
入居者が安心して暮らせるために事故防止の取組みは不可欠であり、単にインシデントやアクシデントレポートを出すだけではなく、職員間でしっかりと予防と再発防止に繋げていくよう取り組んでいきたい。
又、身体拘束しないケア、感染症予防等の勉強会なども年間計画を定め計画的に実施したい。
- V サービスの成果に関する項目について
概ね入居者は「自分らしく」、穏やかに楽しい暮らしが出来ていると感じています。
今年度、職員から48枚の行事企画書が出され、入居者のニーズに沿った個別ケアを実施できました。新人職員も中堅職員も、企画から実施、報告書の作成まで携わることで大きな自信に繋がったようです。
今後、入居者、家族等のご意見、外部評価、アンケート結果を活用し、満足度アップに繋げていきたいと思います。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

事業者名稱 ヴループホームみちくさ

評価年月日：22年1月31日

前回評価年月日： 20年 12月 9日

サービスの質の向上に向け取り組む課題				次期評価実施時期	
評価項目番号	優先順位	内容	取り組み期間(〇年〇ヶ月～〇年〇ヶ月まで)		
19、22	1	人材育成と支援 (職員を育てる取組み)	H22.1～H22.12	<ul style="list-style-type: none"> ・職員毎の年間研修計画の策定 ・キャリアパスの導入 	22年12月
10、11 78	2	権利擁護に関する制度、虐待防止、感染予防など の理解	H22.1～H22.12	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修、内部研修の充実 ・定期的な勉強会の開催(職員同士が講師となつて学びあう) 	
6	3	地域とのふれあいの促進	H22.1～H22.12	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者のニーズの把握 ・地域のニーズの情報の収集 ・地域貢献に向けた具体的な活動の立案 	
21	4	職員のストレス軽減に向けた取組み	H22.1～H22.12	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設職員との交流会 ・親睦会の開催 ・クラブ活動(スポーツ、旅行) ・管理者との個別面談 	